

アイランドシティ低炭素型都市ビジョン 骨子（案）

1. 基本的事項

1.1 背景(何故、先進的な低炭素都市づくりが必要なのか)

- (1) 今日の環境・エネルギー問題
- ① 地球温暖化対策の強化
 - ・温室効果ガス削減目標と中長期ロードマップ
 - ・地域レベルでの取り組みの強化
 - ② エネルギー需給問題への対策強化
 - ・新エネルギー基本計画の策定、改正省エネルギー法
 - ・エネルギーの効率的利用、再生可能エネルギーの利用 等
- (2) 本市及びアイランドシティにおける取組み
- ① 本市の取組み
 - ・第三次福岡市環境基本計画
 - ・福岡市地球温暖化対策実行計画（第4次）（策定中）
 - ・その他（自動車交通公害防止計画、建築物環境配慮制度等）
 - ② アイランドシティでの取組み
 - ・「アイランドシティ環境配慮指針」
 - ・新「アイランドシティ事業計画」（平成21年12月策定）
 - ・その他の取組み
- (3) 環境問題への人々の関心の高さ
- ① 市民や居住者の意識・ニーズ
 - ・市民、居住者アンケート、その他調査レポート等

1.2 ビジョンの目的

「アイランドシティ事業計画」に基づく”国内トップレベルの低炭素型都市”の将来像を市民・企業等に示す。

1.3 ビジョンの理念

環境性・経済性・快適性を兼ね備えた魅力ある低炭素型都市を実現
 ～ 九州・日本・アジアにおける低炭素型まちづくりの先導モデルを目指して ～

1.4 ビジョンの対象期間

まちづくりエリア完了時点（平成30年代後半）まで

1.5 ビジョンの対象地域

市5工区を中心としたまちづくりエリア（約98.6ha）を基本とし、具体的取組の項目によっては、アイランドシティまちづくりエリア全域、さらにはアイランドシティの周辺地域や市全域との連携についても対象に加える。

1.6 ビジョンの位置づけ

平成21年12月に策定した「アイランドシティ事業計画」の(5)まちづくりの基本方針の1つである「環境共生のまちづくり」で定めた“まちづくり完成時点における国内トップレベルの低炭素型都市”の実現に向けたビジョン（将来像の提示）及び中長期計画（ロードマップ）として位置づけ。

本日資料において概要を添付

2. 取組みの方向性

2.1 全体(基本的な方向性)

- (1) 先進性・独自性のある取組みの推進
- ・ ・ ・ 国内トップレベルの低炭素型都市を目指した最新の技術の導入、及び、アイランドシティの地域特性（新規開発エリア）や地域資源（豊かな自然環境）などを生かした独自性のある低炭素化の取組みを実施
- (2) 自然環境との共生
- ・ ・ ・ 博多湾東部地域の自然環境と調和した緑豊かなまちづくりの推進
- (3) 低炭素型まちづくりを推進する地域コミュニティ活動を促進及び取組みを継続し普及させる仕組みづくり
- ・ ・ ・ 低炭素型のまちづくりを推進するため、環境に関心の高い地域コミュニティ活動を促進。また、先進性・独自性のある取組みを分析・評価し、次のまちづくり等へ活かす仕組みをつくる。

2.2 分野別(低炭素型まちづくりに向けた具体的取組み)

- (1) 住宅・建築物：
- 【中期】戸建住宅についてZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）を導入
 - ・ 建築躯体・開口部の高性能化・可変性、エネルギー利用の効率化、再生可能エネルギーの積極的な利用
 - 積極的な省資源化ならびに資源循環利用を推進
 - ・ 節水・雨水利用、ごみの細分別及び資源化推進
 - ・ リサイクル建材の利用や建設廃棄物の発生抑制
 - 【長期】全ての住宅・建築物でZEH又はZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を実現、戸建住宅については、LCCM（ライフサイクルカーボンマイナス）化へ
 - ・ 新築される全ての住宅・建築物を対象に実現。戸建住宅については建設・修繕・廃棄時も含めたLCCM化を推進
- (2) 地域：
- 【中期】全ての住宅・建築物でエネルギー使用量、CO2 出力を計測し、街区全体での「見える化」を実現
 - ・ 全ての住宅・建築物で集中計測システムを導入、街区全体更には地域で情報の集約化。先行開発街区についても導入推進
 - ・ 「見える化」により集められた情報をフィードバックし、アドバイスなどを行うことで、住民・事業者のスマートライフの実践を支援
 - 【長期】太陽エネルギー等の再生可能エネルギーの積極的な導入
 - ・ 住宅・建築物の他、公共空間において再生可能エネルギー等を積極的に活用
 - エネルギーの面的活用による地産地消の推進
 - ・ 住棟内や複数建物レベルでのエネルギーの効率的な利用(面的活用)を推進
 - ・ 太陽エネルギー等の再生可能エネルギーの活用等を可能とするための基盤（蓄電、マイクログリッドなど）を整備し、エネルギーの地産地消を推進
- (3) 交通：
- 【中期】EV・PHV等の次世代自動車の積極的な導入促進
 - ・ 次世代型自動車などの利用に対応した住宅・建築物並びに基盤整備の推進。共同利用（カーシェアリング）の推進
 - EVバス導入に向けた実証実験誘致や試行運行の実施
 - ・ アイランドシティと都心等を結ぶ路線などアイランドシティを起点とする一般路線にEVバスを使った実証実験や試行運行を誘導
 - 自転車利用がしやすい環境づくり
 - ・ 住民・事業者そして来訪者の身近な足として導入。適切な走行空間や駐輪空間の確保等による環境づくりの推進
 - 【長期】全世帯・事業所がEV・PHVなどの次世代自動車を利用しやすい環境づくり
 - ・ 地域内の住民や事業者が利用する自動車はすべて次世代自動車であるようなまちづくりを推進
 - EVバスの路線バス複数路線への導入
 - ・ バス一般路線への複数のEVバスの導入によるCO2削減などの環境改善
 - 超小型モビリティを活用したまちづくり
 - ・ アイランドシティ内移動手段として超小型モビリティを活用推進
- (4) 自然環境：
- 【中期】街区内における緑地空間の確保及び公園・道路等の公共空間の緑化並びに外周緑地等の親水空間の整備等
 - 【長期】グリーンベルト」を軸とする緑のネットワークの形成とエコパークゾーンと一体となった野鳥公園の整備
- (5) 環境活動：
- 【中期】住民の環境活動を支援する仕組みづくり
 - ・ エコ活動に関する手引き書の作成・配布、低炭素型まちづくりのための推進母体の設置、環境貢献活動に対する経済的メリット付与の仕組みづくり、導入効果の検証とその結果の公表など
 - 【長期】環境学習支援、研究開発、人材育成、情報発信の拠点機能を整備
 - ・ アイランドシティにある様々な環境資源を活かし、環境関連拠点の機能（環境学習支援、研究開発、人材育成、情報発信）を整備する。

3. 将来像 —低炭素型ライフスタイル—

- (1) 中期（5年）のイメージ
- ・ まちのイメージ(鳥瞰図・パース図 など)
 - ・ 生活のイメージ
- (2) 長期（20年）のイメージ
- ・ まちのイメージ(鳥瞰図・パース図 など)
 - ・ 生活のイメージ

4. 低炭素化に関する目標値

- (1) 中期（5年）の目標
- ・ ○○%削減(同等の市街地と比較して)
- (2) 長期（20年）の目標
- ・ ○○%削減(同等の市街地と比較して)

↑ ↓

「福岡市地球温暖化対策実行計画(第四次)」(策定中)との整合を考慮しながら設定。対策効果を積み上げた試算により検証予定。

5. ビジョンの具体化に向けて

- (1) 先導モデル事業の実施
- ・ 「CO2 ゼロ街区」モデル事業他を実施し、その取組みを次のまちづくりに生かしていく
- (2) 産官学並びに市民との連携の強化
- ・ 産官学が連携したまちづくりを実現
 - ・ IC内や市内で活動する市民団体との連携を強化
- (3) 継続的な検証と情報発信
- ・ 先導的まちづくりを継続的に検証・評価し、次のまちづくりに生かしていくための独自のPDCAのための手法と体制を整備(産官学が連携)